

必二字ニ定メテ書コトハナレルナリ。○中出雲風土記ニ、鄉名ドモ、神龜三年改字トシルセル。
多ケレバ、和銅ノ後ニモ、ナホツギく改メラレシモ有シナルベシ。又必二字ニ定メテレタルモ、
延喜式ヨリ始マルコトニハ非ズ。既ク奈良朝ノホドヨリ、多クハ二字ニ書リト見エタリ、サ元國
郡鄉ノ名、カクノ如ク好字ヲ擇ビ、必二字ニ書ニツキテハ字音ヲ借リテ書ノ名ハ尋常ノ假字ノ例ニ
テハ、二字ニ約メガタク、字ノ本音ノマ、ニテハ其名ニ叶ヘ難キガ多キ故ニ、字音ヲサマトニ
轉ジ用ヒテ尋常ノ假字ノ例トハ、異ナルガ多キコト、相模ノ相^{サガ}信濃ノ信ナドノ如シ、カ、ルタグ
ヒ皆是レ物々シキ字ヲ擇ビテ必二字ニ約メムタメニ止事ヲ得ズ。如此ザマニ音ヲ轉用シタル物
ナリ、然ルニ後世人此義ヲタドラズシテ、國郡鄉ノ名ドモノ、其字音ニアタラザルコトヲ疑フ者
多シ、殊ニ漢學者ナドハ、タゞ漢籍ヲ見馳タル心ニテ字ヲ本ト心得ルカラ、其音ニ當ラザル地名
ヲバ、後ニ訛レルモノトシテ、タトヘバ相模ハモトサウモ、信濃ハシンノウナリシヲサガミシナ
ノトハ後ニ訛レルナリトヤウニサヘ思フメリ、是イミジキヒガコトナリ、サガミシナノハ、本ヨ
リノ名ナルニ、相模、信濃ナドノ字ハ、後ニ填タルモノニテ、末ナルコトヲ辨ヘザルモノナリ、
〔閑田耕筆〕國里の名に唱へと文字と異なるもの近江はもと淡海なれども都近き江といふよ
り、今之字に改れり、遠江も是に對す、上毛下毛も唱へは殘りて、文字は上野下野に改れり、むさし
さがみも武藏相模の文字にてはいかにもよむべからず、むさしもむさかみの略武者のこと、ろ
なりと加茂氏はいへり、慶雲年間諸國好文字に改給ひし時の所爲にや、今はいふ人も書人も馴
てあやしまざるなり、里の名もかすがを春日と書るは春はかすむ義日はいくかといふかにや、
津鹿とも古書に見ゆるは明らかなり、河内國交野郡に私部私市と書いて、きさべきき市といふ、私
字きさとよむこと心得がたしもとささとかなを付たるさに一點を誤りそへて、きになりたる
にやあらん、ひらかたを牧方とかけるは、枚字につめを添たる誤は誰も知べし淀の隣村に一日